

0.1 H27 数学選択

[1] (1) 略.

(2) $\frac{1}{a+b\sqrt{5}} = \frac{a-b\sqrt{5}}{a^2-5b^2}$ より $a^2-5b^2 = \pm 1$ なら逆元を持つ. $(2-\sqrt{5})(2+\sqrt{5}) = -1$ である. $a_n+b_n\sqrt{5} = (2+\sqrt{5})^n$ とする. $\sigma(a+b\sqrt{5}) = a-b\sqrt{5}$ は A 上の同型射像であるから $(2-\sqrt{5})^n = \sigma((2+\sqrt{5})^n) = a_n-b_n\sqrt{5}$ である. よって $a_n^2-5b_n^2 = (a_n+b_n\sqrt{5})(a_n-b_n\sqrt{5}) = (2+\sqrt{5})^n(2-\sqrt{5})^n = (-1)^n$ より A^\times は無限群.

	加法	0	1	$\sqrt{5}$	$1+\sqrt{5}$	乗法	[0]	[1]	$[\sqrt{5}]$	$[1+\sqrt{5}]$	
	0	0	1	$\sqrt{5}$	$1+\sqrt{5}$	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
(3)	1	1	0	$1+\sqrt{5}$	$\sqrt{5}$	[1]	[0]	[1]	$[\sqrt{5}]$	$[1+\sqrt{5}]$	(1 +
	$\sqrt{5}$	$\sqrt{5}$	$1+\sqrt{5}$	0	1	$[\sqrt{5}]$	[0]	$[\sqrt{5}]$	[1]	$[1+\sqrt{5}]$	
	$1+\sqrt{5}$	$1+\sqrt{5}$	$\sqrt{5}$	1	0	$[1+\sqrt{5}]$	[0]	$[1+\sqrt{5}]$	$[1+\sqrt{5}]$	[0]	

$\sqrt{5})^2 = 0$ より整域でない. (4) $a+b\sqrt{5} \in A/J$ が逆元を持つ $\Leftrightarrow a^2-5b^2 \in (\mathbb{Z}/7\mathbb{Z})^\times$ である.

a	$a^2 \pmod{7}$	$5a^2 \pmod{7}$
0	0	0
1	1	5
2	4	6
3	2	3
4	2	3
5	4	6
6	1	5

表より $a^2-5b^2 = 0$ となる (a,b) は $(a,b) = (0,0)$ のみ. よって $(A/J)^\times = (A/J) \setminus \{0\}$ より A/J は体であり, $|A/J| = 49$ である.

[B] (1) $(x^2-2)^2 = 3$ とすればこれは α を根にもつ. 整理すると x^4-4x^2+1 である. $f(x) = x^4-4x^2+1$ とする. $f(x)$ 既約であることと $f(x+1)$ が既約であることは同値である. $f(x+1) = (x+1)^4-4(x+1)^2+1 = x^4+4x^3+2x^2-4x-2$ となりこれはアイゼンシュタインの既約判定法から既約である. すなわち $f(x)$ が α の最小多項式である.

(2) α の \mathbb{Q} 上の共役は $f(x) = 0$ をといて $\pm\sqrt{2\pm\sqrt{3}}$ である. $\sqrt{2+\sqrt{3}}\sqrt{2-\sqrt{3}} = 1$ より $\mathbb{Q}(\alpha) \ni \sqrt{2-\sqrt{3}}$ より正規拡大. \mathbb{Q} は完全体であるから $\mathbb{Q}(\alpha)/\mathbb{Q}$ は Galois 拡大.

(3) $\sigma \in \text{Gal}(\mathbb{Q}(\alpha)/\mathbb{Q})$ について $\sigma(\sqrt{2+\sqrt{3}}) = \sqrt{2-\sqrt{3}}$ とする. $\sigma^2(\sqrt{2+\sqrt{3}}) = \sigma(\sqrt{2-\sqrt{3}}) = \sigma(1/\sqrt{2+\sqrt{3}}) = \sqrt{2+\sqrt{3}}$ より $\sigma^2 = \text{id}$ である. $\tau(\sqrt{2+\sqrt{3}}) = -\sqrt{2+\sqrt{3}}$ も $\tau^2 = \text{id}$ である.

位数 2 の元が 2 つ以上存在する位数 4 の群は $(\mathbb{Z}/2\mathbb{Z})^2$ のみである.

(4) $\mathbb{Q}(\alpha)$ に含まれる \mathbb{Q} の 2 次拡大は $(\mathbb{Z}/2\mathbb{Z})^2$ の真部分群に対応する. $\langle \sigma \rangle$ の固定体は $\mathbb{Q}(\sqrt{2+\sqrt{3}}+\sqrt{2-\sqrt{3}})$ である. $(\sqrt{2+\sqrt{3}}+\sqrt{2-\sqrt{3}})^2 = 6$ より $\sqrt{2+\sqrt{3}}+\sqrt{2-\sqrt{3}} = \sqrt{6}$ である. よって $\mathbb{Q}(\sqrt{6})$ が $\langle \sigma \rangle$ の固定体.

$\langle \tau \rangle$ の固定体は $\mathbb{Q}(\alpha^2) = \mathbb{Q}(\sqrt{3})$ である.

$\langle \sigma \circ \tau \rangle$ の固定体は $\mathbb{Q}(\sqrt{2+\sqrt{3}}-\sqrt{2-\sqrt{3}})$ である. $(\sqrt{2+\sqrt{3}}-\sqrt{2-\sqrt{3}})^2 = 2$ より $\sqrt{2+\sqrt{3}}-\sqrt{2-\sqrt{3}} = \sqrt{2}$ である. よって $\mathbb{Q}(\sqrt{2})$ が $\langle \sigma \circ \tau \rangle$ の固定体.